

# でかまるくん

Vol. 7

…編集・発行…

岩国市美川支所 地域振興班

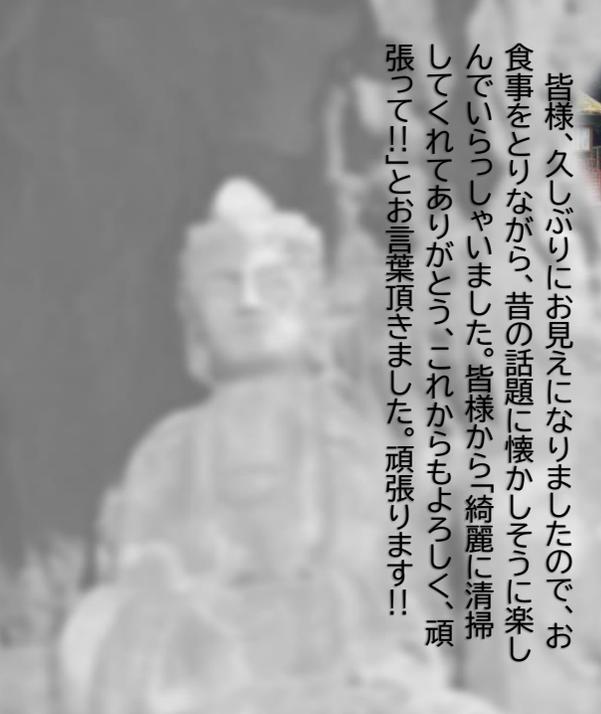
美川町地域おこし協力隊

寺本俊彦

—美川町地域おこし協力隊だより—

令和4年9月15日発行

「でかまるくん」と「岩屋観音窟」に、地元から美川町【どんぐり会】と夏宿サロン【ひまわり】のご一行様が、見学にお越しになりました。



皆様、久しぶりにお見えになりましたので、お食事をとりながら、昔の話題に懐かしそうに楽しんでいらつしました。皆様から「綺麗に清掃してくれてありがとう、これからもよろしく、頑張つて!!」とお言葉頂きました。頑張ります!!

## 「岩屋観音窟」の観音様の逸話をご存じですか？

《根笠川に沿った路を、身なりのみすぼらしい僧(弘法大師)が歩いて下っています。かなりの道のりを歩いて来たらしく、大変疲れているようです。そのとき、女の人が柿の木の下で、その実をもいでいるのに出会いました。僧(弘法大師)は、女の人に「その柿を、少しわたしにくださらんか。」女の方は、「ハイ、ハイ、あげてもいいのですが、これは渋柿ですよ。しぶくてこのままでは食べられません、それでもよかったらあげましょう。」と言って、僧(弘法大師)にその柿をわけてやりました。僧(弘法大師)は、「渋柿か…、それは残念じゃな。それじゃあ、甘くしてやろう。」と言って立ち去りました。さらに川に沿って下ってきた僧(弘法大師)は、遠掛までやってきました。そして、疲れをいやすために、道ばたの森田某の家の縁先に腰をおろして休みました。森田某は信心深い人で、貧しいながらも、心から、その僧(弘法大師)をもてなしました。森田某と話しているうちに、森田某がアクタケ(たちの悪いできもの)で苦しんでいるのを知った僧(弘法大師)は、その薬だと言って、指先ぐらいの大きさの小石を二つおいて立ち去っていきました。

その後、不思議なことが起こりました。僧(弘法大師)に渋柿をやった女の方は、柿をもいで家に持ち帰りましたが、「それじゃあ、甘くしてやろう。」と言った僧(弘法大師)のことばが、なぜか心に残って、まさか…と思いながら一口食べてみると、渋いはずの柿が、それはそれは甘い柿になっています。そして、どれもみなおいしい甘柿になっています。それからは、渋柿であったこの木には、毎年、甘い、おいしい実がなるようになりました。アクタケの薬だと言って、二つの小石をもらった某は、僧(弘法大師)に教えられたとおり、その石を削って、鍋のすみとゴマの粉とクワン貝の殻の粉とを混ぜてこね、こう薬として貼ってみますと、まもなく、今まで苦し続けたアクタケも、すっかりなおってしまいました。なお不思議なことに、その石は、いつのまにか、またもとどおりの大きさになっていました。そして、この石は、たびたび使われましたが、いつまでたっても小さくならなかったそうです。

さて、森田某の家を後にした僧(弘法大師)は、岩屋の鍾乳洞に入り木彫りの観音像を岩の上に据えました。村人たちは、今までに起こった不思議なことを聞いて、ぞくぞくと岩屋に集まり、「ありがたい観音様にちがいない。」と、みんな心から拝みました。》

# 「でかまるくん」情報



おじいちゃん・おばあちゃんから  
孫様まで皆でお越しになりました。



上り坂の参道をペットのワンちゃん  
も一緒にお越しになりました。

お盆期間中に多くのご家族連れがお越しになりました。

◆ 8月12日(金)  
来訪者数143名。

◆ 8月13日(土)  
来訪者数210名。

◆ 8月15日(月)  
来訪者数190名。

\*3日間累計で543名の方が「でかまるくん」にお越しになりました。

昨年12月より清掃活動を始めまして、当初よりかなり綺麗になりましたので、是非一度、お越しください。

